100年、飛翔のキセキ

次代を見据え、時代に挑み続けたこの軌跡を、
次の奇跡につなげて。
100年先の大空へ、
新たなる挑戦はすでに始まっています。

本学園は、設立者・校主 本庄京三郎、校長・工学博士 片岡安と12人の創設理事などが開校に向け尽力し、1922（大正11）年9月7日、時の大阪府知事 池松時和氏から設置認可を受け創設した関西工学専修学校がそもそもの始まりです。

時代と地域の要請に応え、中堅技術者育成を目的に開校した関西工学専修学校は着実にその役目を果たし、多数の卒業生が地域で活躍。それを受け技術者教育を看板としたさまざまな学校を併設する技術系総合学園として展開し、やがて高等教育をも担うまでに発展しました。現在では、大阪工業大学・大学院、摂南大学・大学院、広島国際大学・大学院、常翔学園中学校・高等学校、常翔啓光学園中学校・高等学校を設置する総合学園へと成長を遂げ、約2万5千人の学生・生徒が学んでおり、延べ約31万人の卒業生が社会の各分野で活躍しています。

2022年、学園は創立100周年を迎えます。永い歳月の中、常に「変わらない信念」を抱き続け、そして、時代の要請に応え「変わり続ける」ことで、常翔の名の如く飛翔100年という大きな節目を迎えます。

片岡安初代校長による創設期生徒へのメッセージ

私が言う「立派な人」とは誰でも尊敬する各方面より見て得がたい、頼もしい人となって欲しいのであります。これが国家社会の要求する人であり、家族友人も要求するところの人であります。

かくのごとく人となるには如何にすればよいかと申しますに、そもそも人は努力、心掛けによって全知全能に近いものになりうるのであります。人によってはその能力を伸ばし得るものと伸ばし得ないものがあります。ある程度までしか伸び得ぬ人もありますが、すべての困難を排して迄づかんとする真剣味のある人はその目的を達することができるのであります。もっと、一歩一歩を踏んしめて山に登るようなものでありまして、これは人生の極致であります。このような人は野心大望を持たなくとも周囲より尊敬され指導者となり得る人であります。人を指導する人になり得ることも少なくともその周囲の人々の指導者となり、明星となり得るのであります。

かかる人はやがて大いなる星となり得るに定まっています。（中略）諸君も一歩一歩緊張味を持って自己のベストを尽くしてやっていれば、やがて、向上発展の途が開けて来るのであります。最初から五段も六段も跳び上がるということを期待するのは間違いであります。こうして終局において高いところから大きい範囲を支配し得るに至るのであります。

―関西高等工学校卒業式訓示から―

立派な人、明星となれ、そして大いなる星に向かえ。そのために、自らの一歩一歩に緊張味を持ってベストを尽くせ！

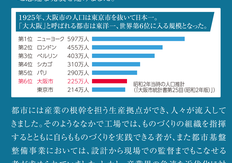
本庄 京三郎
ほんじょう きょうざぶろう
設立者・校主
1868年岡山県生まれ。1891年東京法学院（現 中央大学）卒業。日本有数の商船行社largestの5名匹市甲陽重の開発を はじめ多くの企業経営に携わるなど、新しい街づくり生産のた実業家でした。

片岡 安
かたおか やすし
初代校長・理事長
1876年石川県生まれ。1897年東京帝国大学工科大学（現 東京大学）卒業。大阪市市参与技官を経ては、数多くの建築設計に関わる。日本建築協会、大阪工業会理事長、京都帝国大学講師などを務めた都市計画のパイオニアでした。

学校創設の時代背景

時代は技術者育成を急がせた。

大正期から昭和初期の大阪市は、これまで築いてきた商工業都市としての基盤に加え、市域の大幅な拡張もあって人口や経済規模において東京市を凌駕し、日本で最も繁栄する都市へと急速な発展を遂げました。



都市には産業の根幹を担う生産拠点ができ、人々が流入してきました。そのようななかで工場では、ものづくりの組織を指揮するとともに自らもものづくりを実践できる者が、また都市基盤整備事業においては、設計から現場での監督までもこなせる者が求められていました。しかし、産業界の急速な近代化に対応できる技術者の数が不足し、即戦力となる技術者の養成が急がれました。

当時、わが国の工業教育に対する認識は浅く、特に商業中心の大阪での工業教育機関は微々たるものに過ぎませんでした。このような時代に、将来、工業技術者の必要な時代が必ず到来することを察知し、私立学校の経営では最も難しいといわれる工業教育に、あえて踏み切った関係者のパイオニア精神は注目に値します。

急速な発展により、産業を支え、あるいは都市としての基盤整備を担う技術者が絶対的に不足。

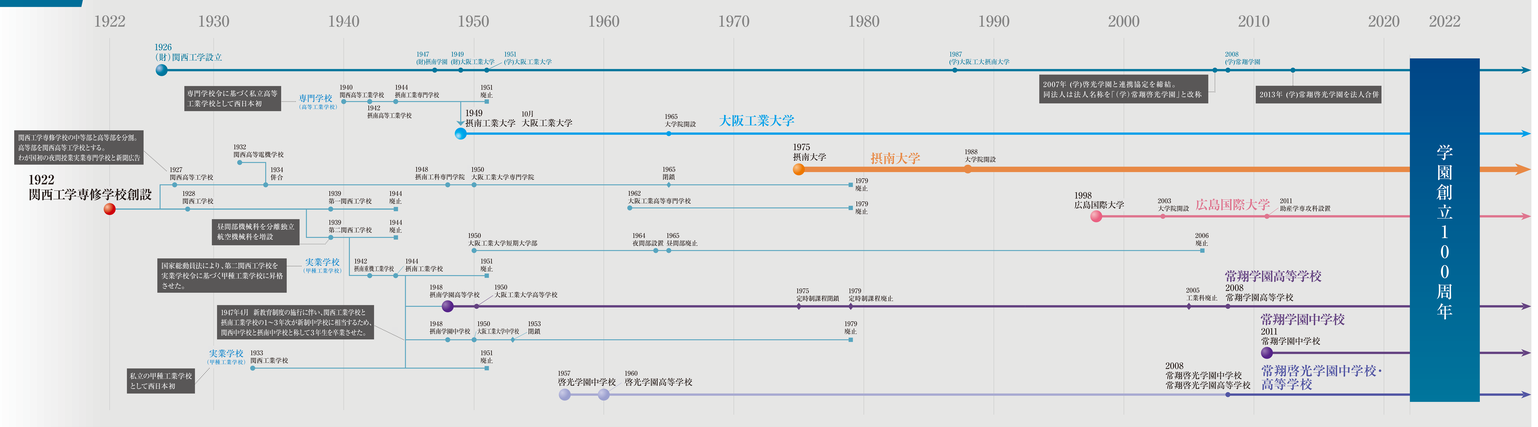
学校法人常翔学園は、2022年10月30日に創立100周年を迎えます。

Smart and Human 摂南大学

学園のあゆみ Since1922

建学の精神

世のため、人のため、地域のため、
理論に裏付けられた実践的技術をもち、
現場で活躍できる
専門職業人を育成する。



摂南大学history Since1975

文理のバランスのとれた総合大学に発展

1975（昭和50）年に工学部のみの工科系単科大学としてスタートした摂南大学。
開学時から「総合大学化」の明確なビジョンを持ち、順次学部を増設。現在、文理のバランスのとれた関西屈指の総合大学へと発展しています。地域や世界を舞台に、伝統の少人数教育と総合大学ならではの学部を越えたアクティブな学びにより、持続可能な社会の実現に貢献できる人材の育成に力を注いでいます。

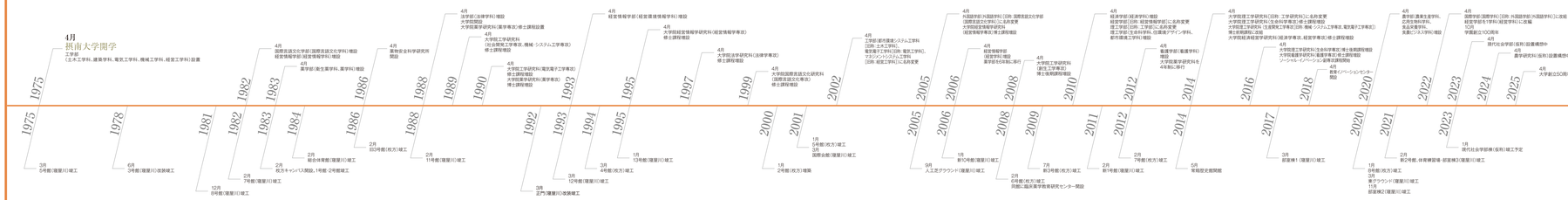
■ 教育の理念

建学の精神に謂り、全人の育成を第一義として、人間力・実践力・統合力を養い、自らが課題を発見し、そして解決することができる知的専門職業人を育成する。

Message from the President 学長 荻田（おぎた） 喜代一（きよかず）

地域から地球規模までの課題の解決と次代の社会を創出する「ヒト」の育みへの挑戦

学園創立100周年の佳節にあたり、理工学系・人文社会科学系・農学系・医療保健系の学部をもつ総合大学の強みを生かして、「次代の社会を創出する「ヒト」を育む」という崇高な価値創造へのさらなる前進を開始します。「本学の強み」、それは教育の理念に謂っている「自ら課題を発見し、解決できる」人材の育成です。今後も専門分野での学びを深めつつ、文理を融合した教育と研究を通し、柔軟に新たな知と活力を生む「専門力と人間力（社会人力）の向上」への挑戦を続けています。本学開学50周年（2025年）とその先の持続的な発展のために「地域から地球規模までの課題の発見と解決」への挑戦を重ね、より一層価値ある大学として永遠なる成長を続けます。



社会の動き

1975	ベトナム戦争終結
1976	ロッキード事件で田中角栄前首相逮捕
1978	新東京国際空港（成田空港）開港
1979	国公立大学の共通1次学力試験を初実施
1983	東京ディズニーランド開園
1985	群馬県御巣鷹山に日航機墜落
1986	チェルノブイリ原発事故
1987	国鉄分割民営化で JRT 社が発足
1989	元号が平成に改元 東西冷戦の終結
1990	第1回大学入試センター試験を実施
1992	学校週5日制開始
1994	関西国際空港開港
1995	阪神・淡路大震災 東京地下鉄サリン事件
1996	O157による集団食中毒・全国に広がる
1998	長野冬季五輪開催 民主党が結党
2001	9・11米国同時多発テロ事件発生
2007	郵政民営化スタート
2008	リーマン・ショックで世界同時不況に
2009	裁判員制度がスタート 民主党政権が誕生
2011	東日本大震災 福島第1原発事故
2012	東京スカイツリー開業
2014	御嶽山噴火、戦後最悪の火山災害
2015	「18歳選挙権」 改正公職選挙法が成立
2016	マイナンバーカードの交付開始 熊本地震
2018	大阪北部地震、台風21号で大きな被害 西日本豪雨で広島・岡山などに記録的大雨と被害
2019	元号が令和に改元 ラグビー日本一 日本大会開催（アジア初）
2020	東京オリ・パラ開催 新型コロナウイルス感染症がパンデミックに
2021	第1回大学入学共通テストを実施 1年の延期を経て東京オリンピック・パラリンピックが開催

学校法人常翔学園 Josho Gakuen

大阪工業大学 | 摂南大学 | 広島国際大学 | 常翔学園中学校・高等学校 | 常翔啓光学園中学校・高等学校